

◆◆◆◆◆ イッセイズ ◆◆◆◆◆

◆ ワイズよ、“ジェンダー”で行こう

浅羽俊一郎

◆ 地域活動報告「地球を壊すプラスチック」

* 当クラブが支援する「き咲きてらす」2月の「哲楽カフェ」はプラスチックによる環境問題がテーマに。出席した浅羽メンの短い報告を掲載する。座席から撮ったスライドなので斜め撮りになっている。



4年間続けてきた地域活動やボランティアで知り合った人の大半が女性、それも熟年の女性たちだ。物怖じせず、議論し、よく笑い、動く。他方熟年男性は心配なほど少ない。

SDGs の第5目標はジェンダー。日本の男女格差が148カ国中118位、東アジアでは韓国、中国よりも低い。政治と経済の分野が特に低いそうだが、経済とは企業社会のことだろう。かつて中根千枝先生が日本を「タテ社会」という仮説で説明したが、先生が60年前に唱えた「タテ」の組織体質が今もなお脈々と企業や自治体に受け継がれており、会社であれ、地元であれ、環境は「タテ」社会なのだ。

男が決め、男の中では先輩が決める。管理しやすく、効率的で、慣らされている。体質改善が難しいわけだ。若者の間では男女差が減ってきてても、社会に出た途端に企業体質を押しつけられる。何かで読んだが、どんな人でも一つの組織に2ヶ月間居続けたら、その体質に染まるそうだ。

「タテ社会」と異なり、女性が地縁や自治体のしがらみに縛られずに、同志として繋がれる地域・市民活動は大切な場なわけだ。



SDGs ロゴ

で、話はワイズだ。ワイズは50年前に女性を会員として受け入れることにした。実際女性の多いクラブは活気がある。男女対等こそワイズの強みだ。先の国際大会では海外の女性会員がプログラムを積極的に運営しているのを見て感動した。そこへ行くと日本のワイズは遅れている。そのことが話題にもならない。活動の運営に企業的な効率優先と検証不要の体質がある。(実はこれはZ世代に見られる「スマホで要領良く」と通じる。)むしろメン自身色々議論し、様々な意見と出会える多文化共生の団体を目指すべきだと思う。そのヒントとして「女性リピーター」戦略を提唱したい。それは若者戦略にもなりうる。その第一歩として、当クラブに続いてジェンダー学習を提案したい。◆

*写真 2024年のチェンマイ国際大会は過去最多の女性会員が参加。平和コンサートやスポーツ大会実現させた。

「き咲きてらす」2月の「哲楽カフェ」はSDGsさいたま応援団の森啓祐氏を招いてプラスチックごみの現状について学び、話し合う機会となった。森氏(78歳)は食料品関連のお仕事を長い間される中で、使われるプラスチック材の多さに気がつき、仕事を離れた後はSDGs活動を立ち上げ、今日までさいたま市を中心に同志とプラスチックの環境破壊について啓発・清掃活動を続けている。カフェではスライドを使ってプラスチックごみの海洋汚染の進行の話から、人体への悪影響について解説。プラスチックが破断して生じるマイクロ・プラスチック(MP)は海や土壌に蓄積し、魚や植物を通して体内に入る。さらに微細なナノ・プラスチック(NP)は空中に飛散し呼吸によって取り込まれる。MP/NPは有害化学物質との親和性が高く、毒性を持っている可能性が高い。またMP/NPは脳や心臓、胎盤などあらゆる臓器で見つかっており、健康への悪影響が強く懸念されている。今関係者の注目を集めているのは人工芝だ。見た目心地よく、公園や家庭、スポーツグラウンド等に普及しているが、子供達、中でも幼児は寝ころがりたりして摩耗した人工芝の微片を大量に吸いこむリスクがある。昨年末、森氏の団体を含む全国149団体は、連名で政府に人工芝規制の要望書を出した。

森氏の発題を受けて、珍しく活発な意見交換は地元や市、海外の取り組み、生協活動、洋芝(ようしば)の紹に及んだ。そして個々人の自覚を促す地道な啓発活動の必要を皆共有した。記録者もいくつか新しい用語を覚えたが、リサイクルにはマテリアル、ケミカル、サーマルがあることを知った。森氏のこれからのご活躍を祈りたい。(浅羽 記)



右: 森啓祐氏
左: ゴミが減らない荒川下流
下: 人工芝の問題



◆ 盛岡 Y リーダーの「こども人権プロジェクト」

こどもの人権プロジェクトは、岩手県弁護士会の有志の皆さんからのお声かけをきっかけに2022年に発足しました。「人権」と聞くと堅く、難しい印象を持ちますが、リーダーの私たちだからこそ重い空気ではなく、明るく、楽しく子どもたちが「こどもの人権」について触れる機会をつくり、私たちも「人権」への理解を深めていこうと活動が始まりました。1年目は、人権標語を岩手県内の小学生から募集し、2年目は、集まった標語を読み札としてカルタにしようと思



得て、県内の7つの高校の美術部の学生に協力していただき、素敵な絵札が完成しました。3年目には集めた標語、絵札をカルタとしてかたちにするために盛岡さんさ踊りや大学の学園祭に焼きそばの屋台を出店し、制作費を集めました。そして、こどもの人権カルタが完



成しました。今年度の2月には、一関市にあるフリースクール「虹の学園」を訪問し、ワークショップを開催しました。こどもたちのカルタを楽しむ姿やたくさんの笑顔がとても印象的でした。また、先月開催した北松園小でのワークショップは、多くの子どもたちの参加に加え、保護者の方にも人権カルタを知ってもら



う機会となりました。こどもたちが楽しみながら人権について理解を深める。そして、それが周囲の大人の理解へと繋がる。このように、こどもが中心となって人権の輪がどんどんと広まっていけば良いと考えています。今後も盛岡市内の小学校でワークショップを実施することを予定しており、たくさんのこどもたち、リーダーに人権について知ってもらいたいです。

岩手県立大学3年 小田原 亜子

* 本文は盛岡YMCAの許可を得て昨年12月のニュースレターから転載させてもらいました。(編集使)

2月11日(祝)に所沢センターで第42回東日本YMCA 少年少女水泳交歓会を実施しました。埼玉、東京、横浜にある10拠点のYMCAから水泳クラスに通っているメンバーを対象に幼児から高校生まで200名弱の参加がありました。

YMCAのクラス以外のこども同士が接する機会が少ないので、水泳というスポーツを通して交流を図り、仲間づくりや親交を深め交歓会ならではの時間となりました。

ちなみに埼玉YMCAのメンバーはメダルを60個獲得することができ、日頃の練習の成果が発揮をされました。また競技以外のお楽しみプログラムでは、館内にいるリーダー10名が持っているシールを集めることで素敵な景品が当たる企画も実施をしました。

水泳交歓会を実施するにあたり多くのボランティアの協力をいただきメンバーにとって充実した1日となりました。



(所沢センター職員 小湊 陸 記)

活動・会議メモ

◆ 2月「夜談会」

2月の夜談会を9日にお馴染みサイゼリアで開催。QRコードでの注文が苦手な我々アナログ系に対する店員さんの接し方も回を重ねるごとに上手くなってきたし、注文する側も失敗は減った。

さて今回の夜談会、最初は前日の衆院選が話題に。ついで会長が用意した資料は連合が2022年に実施した社会調査「Z世代が考える社会改良のための社会運動調査」の報告の抜粋。目に留まったのが「参加できる社会運動の種類」として1位)顔・名前を

出さずに参加できる、2位) 気軽に参加できる、3位) 参加したい時だけ参加していい。また「参加したくない」は集会・デモ・パレードとあった。時代の違いを感じた。遅れて大学生の松本さんも参加。



今回会長から夜談会の持ち方について提案があった。時々前半をサポセンでの話し合いにし、後半をサイゼリアでの会食にしてはどうかと。3月の例会で話し合いたい。(浅羽 記)

出席：浅香、上松、浅羽 M、大輪、松本、浅羽

◆ 2月「バレたんでえ」例会

ジェンダー学習の一貫として今回は児童養護施設におけるジェンダーの問題とスタッフの取り組みについて児童養護施設「さんあい」理事長の高瀬一使徒氏を招いて現場の実態について話を聞かせてもらった。

「さんあい」はキリスト教の価値観に基づいて施設を運営しているということで、先ず旧約聖書の創世記からアダムとイブの失楽園の話引用。神が創造した完璧であるはずの世界が原罪(「的外れ」の



意)の結果、不完全な世界になり、様々な人間がいる以上、多様な生・性があるということを肯定的に受け入れて「さんあい」を運営している。

ジェンダーについては、行政がセクハラ的事案に敏感で、発生したらすぐ詳細に報告することが義務付けられている。例として男子職員による小学生女児へのハグ。家庭であれば父親が娘をハグするのは自然で大切なスキンシップだが、施設では許されない。また思春期の女子男子は色々個別に性的課題を持ち、職員はケース毎に解決策を探す。学校の性教育より個別丁寧な対応を心がけている。

ここ数年の傾向としては発達障害の子どもの数がかかり増えてきている。

地域の児童の数が減る現状にあって、「さんあい」の子ども達と住民との関係はうまく行っており、定期的な交流などを続けている。(浅羽 記)

*「さんあい」は当クラブ同様、今年50周年を迎えます。

ゲスト：浅香、浅羽m、エンバ、金子、高瀬、長谷川

メン：浅羽、伊藤、上松、衣笠、高岡



仲間からの便り



◆ 今月の俳句 堀和光二郎メン (俳号 愚道)

二月に入り作った「街路樹のまだまだ固き春芽かな」でしたが、昨日から急に温かくなり、

街路樹の膨らみかけし春芽かな

となりました。自転車で走っているとイロイロ目に着きます。



山茶花の落ちし花びら二月かな

また毎日観ている蠟梅(ろうばい)が

毎日の蠟梅の花艶が消え

となりました。最後に

春なのに平和を忘れた迷い猫

で結びます。

◆ 三浦雄二メン

(浅羽会長が自宅訪問)先月休会中の三浦メンをご自宅に訪ねた。ご本人は体調を考えて飲食に気をつけていると言う。昨年2月から近くで発達障害の子どもを見守るボランティアを続けていて、子どもとの触れ合いのお陰か、表情が明るかった。早くクラブに復帰してほしい。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
2月夜談会(2/09)	6	2	4
2月例会(2/16)	11	5	6



ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会(Y's Men

International)は青少年教育団体YMCAを

支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたい方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストでも一緒に活動できます。

* 詳細は浅羽会長まで。(090-7426-5553)